

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.2.15 No.66 連絡先 FAX 042-555-1911



60年安保闘争を知っていますか

1960年、「安保、反対！」と、労働者をはじめたくさんの人々が国会に集まり、国会周辺は人、人、人、で埋まりました。

あれから50年、世界では軍事同盟が解体・解散されていくなかで、沖縄の基地も横田基地もなくならないどころか、米軍再編などで恒久化、日米一体化が進み、日米安保体制は強化されようとしています。日米関係は、どうなっているのでしょうか。

1952年4月28日発効した「旧安保条約」の生い立ちは

日本には敗戦後、米占領軍が駐留していました。そして1951年9月8日、日本の主権を承認した対日平和条約（サンフランシスコ条約）は署名されました。

日本の主権を承認したはずなのに、アメリカは日本に米軍を駐留するために、日米安保条約をサンフランシスコ条約に署名した日と同じ1951年9月8日に署名させました。

悪いことをするときには秘密にことをすすめるものですが、この日米安保条約も、国民にも報道機関にも、国会にもまったく知らせないで、当時の吉田茂首相や外務相のごく一部の幹部だけしか知ることができない完全な秘密交渉のうちにつくりあげ、突如として締結されました。

サンフランシスコに派遣された政府の全権（外交交渉でいっさいの権限を委ねられた政府代表）は6人でしたが、対日平和条約の調印の前日の9月7日、米政府から「明日、対日平和条約の調印が終わった後、別の場所で日米安保条約調印式をやりたい」と連絡があり、吉田首相以外のほとんどの人が驚きました。6人のうち2人は「そんな話はまったく聞いていない」と、安保条約調印式への出席を断りました。

8日の午前中、サンフランシスコ市の中心部にあるオペラハウスで対日平和条約調印式は行われました。その日の夕刻、4人の全権は、サンフランシスコ市の北西部の古い軍事基地（米陸軍第6軍基地司令部）に車で連れて行かれ、その下士官集会所に案内されたのです。わずか10分とも15分ともいわれる、あっという間の日米安保条約調印式が行われたのです。

この調印式で、アメリカ政府を代表して調印したのが4人でしたが、日本政府代表として調印したのは吉田茂首席全権ただ1人だったのは異常なことでした。それは、安保条約の内容を知っていたのはサンフランシスコに着いてからも吉田首相だけだった、だから他の全権は誰1人調印しなかったのです。

日本政府は、国民の批判を恐れ、1952年2月まで公表せず、国会審議も行いませんでした。公表後は、国会でも国民のなかからも、強い非難がわき起こりました。政権党・自民党の若い代議士、後の首相・中曽根康弘氏に「要するに、この協定は日本を植民地化するものですナ」と言わせるものでした。



旧安保条約の第1条は

「アメリカ合衆国の陸軍、空軍及び海軍を日本国内及びその附近に配備する権利を、日本国は、許与するとしています。

米軍基地設置にあたって、好きな場所に好きなだけ基地をおける「全土基地方式」が定式化されました。さらに「日米行政協定」で在日米軍の特権を定めました。これらはほぼ、今日まで引き継がれています。

いつ起きるか分からない米軍機墜落事故、過去の事故を風化させないで… (No. 66 裏面)

1964年（昭和39年）9月 大和市館野鉄工所墜落事故 5人死亡

アメリカ海軍戦闘機が厚木基地を離陸直後にエンジン故障を起こし、上草柳の館野鉄工所に墜落しました。同鉄工所では墜落の衝撃と可燃物の爆発炎上により、住宅と2棟の工場が全壊。工場棟で作業をしていた3人が即死、重傷を負って入院した2人も後日死亡、負傷者4人、家屋全壊4棟、一部損壊6棟をもたらす大惨事となりました。(大和市のホームページに詳細あり)

1964年（昭和39年）4月 町田米軍機墜落事故 4人死亡

4月5日、米海軍偵察機 RF-4A が嘉手納基地から厚木基地へと向かう途中、町田市の国鉄横浜線原町田駅前商店街（現在の JR 町田駅付近）に墜落しました。墜落地周辺では衝撃及び火災により一般市民4名が死亡、32名が重軽傷者を負う惨事となりました。

乗員1名はパラシュートで近くの高ヶ坂団地に着地後、米軍病院に収容されました。

墜落現場は、名実ともに原町田の繁華街の一角でした。この事故の5ヶ月後におきた大和米軍機墜落事故のように、墜落後2km以上の暴滑走という事態が起こっていれば、町田市の中心部は甚大な被害を受けていただろうとは、当時の青山藤吉郎市長の談です。

町田市、その他行政機関の迅速な作業で、生存者の救出や、現場の保全修復が滞りなく行われたということです。墜落現場には今もなお、墜落機のエンジンが地中深く埋まっているとされています。町田平和委員会は昨年『町田の米軍機墜落45周年』のパンフを発行しています。

1977年（昭和52年）9月 横浜米軍機墜落事件 母子3人死亡

9月27日13時過ぎ、米海軍の戦術偵察機 RF-4B ファントムが、厚木基地を離陸直後に燃料満載の状態エンジン火災を起こしました。乗員2名はパラシュートで緊急脱出。放棄され制御を失った機体は5kmほど離れた現・青葉区荏田北三丁目の住宅地に墜落し、周辺の家屋を炎上させ、一般市民9名を巻き込みました。現場にきた自衛隊は乗員だけ救出しました。被災住民を病院に運んだのは造成工事をしていた人達でした。1歳と3歳の幼い兄弟は、全身大やけどで、手当のかいもなく翌日死亡しました。兄弟の母親の和枝さんは皮膚の8割が焼け「2、



3日が山場といわれる重体でしたが、早くよくなって子どもの看病をしたいと、3%の硝酸銀で菌を焼く耐え難い痛さの治療も受けました。

事故から1年4ヶ月後に子どもたちの死を知らされ、泣くだけ泣いて「子どもの分まで生きる」と静かに言った和枝さんでした。多くの人々の支援を受け60数回もの全身皮膚移植にも耐えた和枝さんでしたが、事故から4年4ヶ月後の1982年1月、死亡しました。

絵本『パパ ママ バイバイ』は、この事故のお話です。左の写真は横浜・港の見える丘公園にある『愛の母子像』です。横須賀にはこの像より早く『平和の母子像』が建立されています。

横田基地もいらない！市民交流の集い

3月20日（土）1時30分～4時 福生市民会館 小ホール

横田基地もいらない！市民交流の集い実行委員会のチラシを添付しています。
ぜひ、お出かけください。個人・団体の実行委員会参加も呼びかけています。